



1日10^トほどの埋立ごみが発生。焼却灰は薬剤で固められ、「固化灰」として最終処分場まで運ばれます。

安曇野市と穂高広域施設組合（以降・組合）では、循環型社会の形成を目指し、ごみの減量と資源化を進めるとともに、一般廃棄物の発生から最終処分に至るまでの適正な処理を進めています。

施設整備の背景

安曇野市と穂高広域施設組合（以降・組合）では、循環型社会の形成を目指し、ごみの減量と資源化を進めるとともに、一般廃棄物の発生から最終処分に至るまでの適正な処理を進めています。

しかし、その最終処分については、組合としての最終処分場がないため、北信地域にある民間の最終処分場に、その埋め立て処分を委託しています。

環境省の資料では、全国的に一般廃棄物の最終処分場の残余年数は約15年と推計されています。埋め立て処分を民間に委託し続けたとしても、将来にわたって最終処分場が確保できるとは言えず、その整備は急がなければならぬ重要な課題です。

また、最終処分場がない市町村は全国でも少数派であり、343市町村（全国1、827市町村の18・8％）となっています。（注1）

このような実態を踏まえ、組合では、自ら出したごみは自ら処分する「自区内処理」を原則とし、市内に最終処分場を確保するための検討を進めています。

そして、5月から6月にかけて、第1次候補地の周辺住民の皆さんを対象に、施設の概要についての説明会を開催しました。

それぞれの会場では、候補地が選定されるまでの経緯や、最終処分場の安全性などについて、多くの質問や意見が出されました。

（注1） 出典・環境省「平成18年度日本の廃棄物処理」

暮らしに欠かせない施設です

一般廃棄物最終処分場の整備にご理解を

安曇野市など6市町村でつくる穂高広域施設組合（構成市町村：安曇野市、池田町、松川村、生坂村、筑北村、麻績村）では、管内で発生した一般廃棄物を適正に処分するため、市内に最終処分場を確保することを目指しています。

注目情報 2

庁舎に統合するよう検討しますが、他の支所についてはその機能・規模（扱う事務や窓口サービス）を維持することを市の基本的な考え方としています。

既存施設についての意見

意見（要旨）

各旧町村の施設の利用も早期に検討し決断すべきである。

市の回答

構想案では、建物の耐用年数に着目してその活用方法を区分しました。本庁舎、豊科総合支所、明科総合支所については老朽化が著しく、耐震面からも市民の皆さんに安心してご利用いただくために、必要最小限の整備をする必要があります。また、状況によっては処分も検討する必要がありますと考えています。本庁舎が建設された場合に発生する支所の空きスペースについては、市民の交流ス

ペーパースや図書館、公民館、児童館、古文書館、公営企業の拠点など、現時点ではさまざまな活用方法が考えられますが、地域のご意見を尊重したうえで、本庁舎建設検討と並行して今後協議を進めます。

本庁舎等の必要性にかかわる意見

意見（要旨）

新本庁舎建設計画に反対です。

【理由】

市のシンボルとなる立派な庁舎が必要といわれているが、市政の立派さは外見ではなく中身である。

財政的に莫大な借金をしてま

で今建てる必要は全く無い。それよりも市民が安心して暮らせる温かみの実感できる市政に転換してほしい。

知恵を出して、庁舎建設より市民生活第一と決断した手腕のほうが後世に光るものとなるはず。

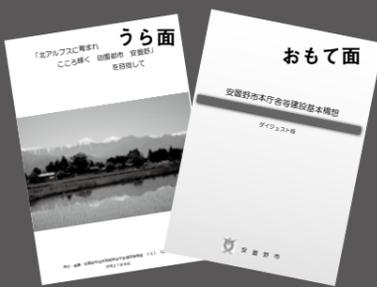
市の回答

市政の立派さは外見ではなく中身であるということは十分に認識しています。現在の本庁舎、豊科総合支所、穂高総合支所、三郷総合支所、明科総合支所は老朽化が著しく、市民の皆さんが安心して活用するために耐震補強工事や建て替えが必要となります。これらに要する費用を試算すると、新たに本庁舎を建

お知らせ

安曇野市本庁舎等建設基本構想【ダイジェスト版】を作成中

安曇野市本庁舎等建設基本構想の策定に合わせ、同構想を要約した【ダイジェスト版】を作成しています。建設基本構想を広くお知らせするため、今後、市民の皆さんにお届けする予定です。



今後の予定について

今後は建設場所を決定したうえで、敷地配置や庁舎の設備などの方針を定める「本庁舎等建設基本計画」を平成22年度中に策定する予定です。分庁方式によるご不便や無駄を解消し、安曇野にふさわしい本庁舎の建設に向け、今後も広く市民の皆さんのご意見をお聞きしながら検討を進めていきます。

図本庁舎建設準備室（TEL71・2000 FAX71・5000）